

平成29年度

グローバルステージ in HAWAII 報告書

県人会担い手育成青年派遣事業

	Page
事業概要	2
派遣団員名簿	3
派遣スケジュール	4
報告書	
馬場 幸穂 (福岡女学院大学 1年)	5
天野 瑞希 (西南学院大学 2年)	8
権藤 丞 (久留米大学 2年)	10
高島 潤 (九州大学 2年)	12
田中 翔 (西南学院大学 2年)	14
友添 大志 (九州大学 2年)	16
久枝 綾音 (日本赤十字九州国際看護大学 2年)	18
原 弘華 (西南学院大学 3年)	21
写真	23

県人会担い手育成青年派遣事業（グローバルステージ）

1 目的

福岡県内に居住する青年が、福岡県出身者が移住した国を訪問し、海外で活躍している移住者等との交流や、フロンティアに挑んだ先人について学ぶこと、また、現地の政治経済情勢や社会事情を理解することを通じて、国際感覚を身に付けるとともに現地とのネットワークをつくることを目的とする。

2 内容

- (1) 県人会員宅等でのホームステイ、県人会や大学等への訪問を通じた現地の人との交流
- (2) フロンティアに挑んだ先人や移住の歴史についての学習
- (3) 企業、政府機関訪問等を通じた政治社会情勢・ビジネス事情の把握
- (4) 上記を通じた現地とのネットワークの構築

3 派遣先 アメリカ合衆国ハワイ州(ホノルル市、ヒロ市、コナ地域)

4 派遣期間 平成30年 2月23日(金)～ 3月3日(土)

事前説明会 平成29年 12月23日(土)

事前研修会 平成30年 2月17日(土)

理事長表敬 平成30年 2月20日(火) ※福岡県国際交流センター藤永憲一理事

県庁帰国報告 平成30年 3月16日(金) ※福岡県江口勝副知事、福岡県議会樋口明議長

5 派遣人員 8名

6 応募資格

- ・派遣時において、原則として18歳以上30歳未満の学生、社会人(高校在学中の者を除く)で、福岡県内に住所を有する者
- ・在籍する団体(勤務先・学校)の理解と承諾が得られる者
- ・事務局が指定する事前研修、帰国報告にすべて参加できる者
- ・協調性に富み、団体生活に適応でき、心身ともに健康で、派遣に十分耐え得ると認められる者

7 主催 (公財)福岡県国際交流センター

	氏名	所 属
派遣団員	ば ば ゆき ほ 馬場 幸穂	福岡女学院大学 国際キャリア学部 1年
	あまの みず き 天野 瑞希	西南学院大学 文学部外国語学科英語専攻 2年
	ごんどう じょう 権藤 丞	久留米大学 商学部商学科 2年
	たかしま じゅん 高島 潤	九州大学 経済学部 2年
	たなか かける 田中 翔	西南学院大学 文学部英文学科 2年
	ともぞえ たいし 友添 大志	九州大学 法学部 2年
	ひさえだ あやね 久枝 綾音	日本赤十字九州国際看護大学 2年
	はら ひろ か 原 弘華	西南学院大学 文学部英文学科 3年
団 長	わたなべ あや 渡辺 文	公益財団法人福岡県国際交流センター 事務局長
随 行 員	おおた ゆうこ 大田 佑子	公益財団法人福岡県国際交流センター 企画交流部



2018年2月23日(金)～3月3日(土) 7泊9日

	日程	時間	スケジュール内容	滞在先
1	2月23日 (金)		出発式 (福岡空港国内線ターミナル) →成田→ホノルル	ヒロ (ホームステイ)
		AM PM	ホノルル → ヒロ着 キラウエア山訪問(ビジター・センター、ジャガー博物館) ハワイ大学ヒロ校訪問 学生との交流 ハワイ島福岡県人会歓迎会 (県人会員、学生)	
2	2月24日 (土)	AM PM	各ホストファミリーで交流 ハワイ日本センター訪問 国立天文台すばる望遠鏡訪問 ヒロ → コナ着	コナ (ホームステイ)
3	2月25日 (日)	AM	Country Samurai Coffee Company 訪問 コナ福岡県人会交流会(昼食)	コナ (ホームステイ)
		PM	Kona Natural Soap/Kokoleka Lani Farm 訪問	
4	2月26日 (月)	AM PM	コナ → ホノルル着 戦艦ミズーリ、真珠湾ビジターセンター見学	ホノルル (ホームステイ)
5	2月27日 (火)	AM	ハワイ州議会訪問	ホノルル (ホームステイ)
		PM	ハワイ大学ウェストオアフ校講義参加	
6	2月28日 (水)	AM	ハワイ大学マノア校見学 学生交流 ハワイ日本文化センター見学	ホノルル (ホームステイ)
		PM	サン・ヌードル社訪問 フラ・レッスン @Royal Hawaiian Center	
7	3月1日 (木)	AM	在ホノルル日本国総領事館訪問 Royal Hawaiian Center 訪問、説明	ホノルル (ホテル)
		PM	Kaiwa レストラン総料理長訪問 ハワイ福岡県人会交流会(夕食)	
8	3月2日 (金)	AM	ホノルル発	機内泊
9	3月3日 (土)	PM	成田 → 福岡着 解散	

グローバルステージ in HAWAII 報告



ばば ゆきほ
馬場 幸穂

(福岡女学院大学 国際キャリア学科 1年)

今回、グローバルステージ in HAWAIIの一員としてプログラムに参加し、2月23日から3月3日までの約10日間をハワイのヒロ、コナ、ホノルルで過ごした。私はこのプログラムへの参加にあたって、【相手の心を知り、自分の心を伝えて、心を通わせる】という目標をたてた。そして学びと思い出に溢れた10日間を過ごし、この目標を達成することが出来た。私が目標に基づいてプログラムで得た大きな2つの学びを報告する。

1つ目は、日系移民の方が辿って来られた歴史を、現地で直接学べたことだ。現代はその気になればインターネットでなんでも調べられる世の中だ。もちろん私も、プログラムに参加する前に大まかなハワイの日系移民の歴史はネットで調べていた。しかし実際に現地へ赴くと、知っていることでも感じ方が全く違った。

私たちはヒロでハワイ日本センターを、ホノルルではハワイ日本文化センターを訪問した。ハワイ日本センターでは、日本からの荷物を詰めた柳行李、実際に使用していた衣類やお茶碗、お筍や茶道道具、おもちゃ…日系移民の方々が残された〈生きた証〉を目の当たりにした。案内して下さったアルノルドさんが、自身の祖母が実際に使われていたお弁当箱を見せながら教えて下さった、「プランテーションの現場ではいろんな国からの移民が働いていて、みんなでお昼ご飯を食べていた。その昼休みの時、違う国同士の中で自分の国との共通点を見つけていた。今は外国の人と交流するときには自分の国との違いをみんな探すだろうけれど、あの当時はお互いの言語も違ったから、なんとかして打ち解けるために〈同じところ〉を探していた。」という言葉が印象に残っている。

違いを見つけるのは簡単だ。しかし、同じところを見つけることはなかなか難しい事なのではないだろうか。同じところを見つけることで国籍の違いを越えて、心の距離をより近づかせることができる。日頃、留学生と接する機会が多い私にとって、これは大きな発見だった。

ハワイ日本文化センターでは、最初の移民である元年者の時代からの移民の歴史、そして、第二次世界大戦における苦難…そこから立ち上がった日系人の歩みなどを詳しく学んだ。《OKAGESAMA DE》という言葉の裏に隠された先祖への感謝、忠義、恩、責任、恥、誇り、名誉、義理、犠牲、我慢、頑張り、感謝…日本の価値観を異国の地でも大切にし、理不尽なことがあっても「仕方がない」「一歩進むためには、何が出来るか」諦めるのではなく、向き合う姿勢。やっとハワイで認められるようになってきたと思えば、戦争という時代の波に飲み込まれ、アメリカへの忠誠心を示すため、日本人としての誇りと狭間に揺れ動きながら、“使い捨て部隊の Jap”と言われながらも、歯を食いしばって必死に戦った第442連隊戦闘団、第100歩兵大隊。戦後、「我々の戦いはこれからだ！」と奮起して、現在のハワ

イ、そして日系人があること。会ったこともない、大勢の日系移民の方々が辿ってきた今日までの歴史に胸が熱くなった。ハワイは毎年多くの日本人がバカンスに訪れる楽園だが、今こうして歓迎されるのは、そのような会ったこともない大勢の日系人の方々の努力があるからなのだ。

県人会の方との交流、そして関連施設の訪問を通して、現地でしか聞けない話、現地でしか学びとれない歴史、人、空気。インターネットや本ではわからない「リアルな歴史」に触れることが出来た。この「リアルな歴史」を私たち若い世代が知る大切さ、伝えていくことの責任を実感した。こうして、【相手の心を知る】ことが出来た。

2 つ目は、ホストファミリーをはじめとしたたくさんの方と交流することが出来たことだ。私は、今回が初めての海外ホームステイだった。現地の家庭にホームステイできることや、現地の大学生や県人会との交流が多くあることも、このプログラムに魅力を感じた大きな理由の一つだったが、いざ出発が近づくと、「英語でうまく話せるだろうか。」「通じなかったら恥ずかしい。」そんな不安を抱いていた。しかし、ハワイに到着して最初に交流したハワイ島県人会の皆さんは、挨拶の時や自己紹介の時、とても温かい眼差しで見守って下さり、食事をしながらお話しする際も、まだ慣れず、不安げにおずおずとしか話せない私の英語でも嫌な顔一つせず、にこやかに会話して下さいました。そのおかげで、少し自信がついてきた私は、「間違えてもいいから、とにかくたくさんお話ししよう!」と思えるようになった。

ヒロではイワサキさんのお宅に、コナではアンダーソンさんのお宅に、そしてホノルルではゲーさんのお宅にホームステイした。イワサキさんは、福岡県費留学生のケリーのご家族だった。ハワイ渡航前に私はケリーと会っていたため、ケリーと一緒に撮った写真や、一緒にハワイアンダンスを踊った動画を見せると、とても喜んでくれた。ヒロでのステイは初めてのホームステイ、しかも 1 人だった為、不安も大きかったが、優しいイワサキさんご一家のおかげでホームステイへの恐怖感がなくなった。ゲーさんご一家には一番長い期間お世話になったのだが、10 歳と 7 歳の娘さんとゲームやトランプをして遊んだり、ホストファザーとビーチやショッピングセンターに行ったり、本当の家族のように接して頂いた。そんな中でも私が一番印象深かったのが、コナのホストファミリー、アンダーソンさんご夫妻だ。

アンダーソンさんは、コナ県人会会長のトニーさんの友人で、ホームステイを受け入れるのも初めての経験だったそうだ。また、今までお世話になった日系人の方は、とても簡単な日本語(挨拶等)であればご存知であったが、アンダーソンさんは日本語はおろか、日本の事もあまり詳しくは知らなかった。また、日系人の方は、多少私の文が間違っても推測して会話をして頂いていた節もあったと思うのだが、アンダーソンさんは生粋のアメリカ人で、何を言っているか分からなかったら「ハッキリ”Pardon?” “What?”と言われるので、最初は少し怖かった。

しかし、それほどきちんと向き合っているということだ!と気持ちを切りかえて、伝わりやすいように発音にも気を付けたり、それでも分かってもらえないときは違う言い回しで伝えてみたり、分かってもらえるまで諦めずに伝えた。そうして、どんどん会話を【楽しめる】ようになっていった。その空気が伝わったのか、アンダーソンさんも、どんどん私たちに話しかけて、心なしか喜んで下さっているように感じた。

朝早く起きてホストファザーと庭でのんびりコーヒーを飲んだり、海を見ながら家の周りを散歩してみたり、二匹の猫たちと猫じゃらしで本気で遊んだり…コナに滞在したのはたったの 2 泊 3 日だったが、苦労も、喜びも一番思い出深いホームステイはアンダーソンさんとの日々だったと思う。別れの時にご夫婦とハグした際に、「このステイはあなたたちにとっても良い経験だったと思うけれど、私たちにとってもとても良い経験だった。楽しかったよ! ありがとう。いつでも戻っておいで! 今度来たときに連れて行きたいところがたくさんあるよ!」そう言って下さり、思わず涙が出そうになった。私にとって忘れられない瞬間だ。

まさに、【自分の心を伝えて、心を通わせる】ことが出来たと思う。

そして今回私は、より【自分の心を伝えて、心を通わせる】ために、あるものを日本から持参していた。それは、お茶道具だ。小学生のころから茶道を習ってきた私なりの、ホストファミリーへの感謝の想い、そして日本文化の紹介をこめてお抹茶のお点前をしたいと思い、持参した。そして、ヒロのイワサキさんとコナのアンダーソンさんにお点前させて頂いた。お点前しながら、お茶の前にお菓子を先に食べるのにはきちんと意味があること、飲み方にもマナーがあること、本当の日本のお茶会はとても狭い部屋ですること、けれど、それにもきちんと意味があること。など、茶道について英語で一生懸命説明した。どちらのファミリーもとても真剣に私の説明を聞いて下さり、お抹茶を楽しんで頂けた。自分から「お点前をさせて頂きたい。」と言うことを提案することは、想像以上に勇気が必要だった。

しかし、この勇気は私のハワイで得た最高の学びとなった。【自分の心を伝える】それだけなら自分さえ頑張れば出来る事。しかし、【心を通わせる】ためには、相手の事も理解しながら、決して自分本位にならず、勇気を持って接することが大切なのだ、と学んだ。

長くなってしまったが、この2つが、私がこのプログラムで得た学びである。私がたてた目標も無事達成できたのは、一緒にこのプログラムを乗り越えた7人の仲間たち、そして渡辺さん、大田さんをはじめとした福岡県国際交流センターの皆様、ハワイでお世話になった県人会の皆様をはじめとしたたくさんの方々、ホストファミリー、そして応援してくれた日本の家族、友人のおかげである。これからは、このハワイで学んだことを決して忘れず、周りの方へさらに感謝の恩返しをしながら過ごしていきたい。来年開催される、福岡県人会の世界大会も積極的にお手伝いしたいと思っている。そしていつか、もっともっと成長した姿でハワイのホストファミリーたちに会いに行きたい。

海外福岡県人会

福岡県からの海外移住は1885年のハワイ移住に始まり、北米・中南米を中心に広がりました。移住した人々は、異国の地でお互いに助け合いながら生きていくために「海外福岡県人会」(以下、県人会という)を設立し、現在、移住者やその子孫等で構成される県人会は、世界9カ国、20ヶ所にあります。

平成4年から3年ごとに、世界各地の海外福岡県人会が一堂に集まり、県人会活動の情報共有や母県福岡との関係強化を目的として、海外福岡県人会世界大会が開催されています。今回は、2019年に福岡県内で開催予定です。

グローバルステージ in HAWAIIに参加して



あまの みずき
天野 瑞希

(西南学院大学 文学部外国語学科英語専攻 2年)

私はこのプログラムに参加して、ハワイにおける日系人の歴史、文化をはじめとする様々なことを学ぶことができました。このプログラムに参加するまでは、私のハワイに対するイメージは「多くの人が訪れる観光地」で、ハワイについての知識は乏しかったのですが、実際に訪れてみると自分がこれまで知らなかったことを学ぶことができ、またハワイには私たち日本人が知っておくべき歴史があると感じました。

私はこの研修に参加するにあたって三つの目標を立てました。まず一つ目に、ハワイにおける日系人の歴史、文化についての知識や考えを深めることです。渡航前に、それらについて学習したよりも遙かにたくさんの方々のことを、福岡県人会の方や、ホストファミリー、現地の資料館から学ぶことができました。例えば、ヒロで訪れたハワイ日本文化センターには、人々が日本から移住した際に持ってきた品々、スーツケースや家具や日用品、日本人形や鎧など、年季の入った歴史あるものが大切に保管されていました。そこで特に印象に残ったのは、資料館の方のお話です。

移住した人々は過酷なプランテーション労働の短い休憩の際には、一品ずつ持ち寄った日本のお弁当のおかずを分け合っていたそうです。おかずの材料を現地で調達するのも難しい環境でありながらも、日本のふるさとの味を口にしながら働いていた当時の状況が頭に浮かびました。

また、次にホノルルで訪れたハワイ日本文化センターでは、移民の歴史を時系列に沿って学び、当時移民の人々やその子孫が心の中で大切にしていたこと、苦勞したことなどを中心に学習することができました。OKAGE SAMA DE と記された展示室の初めには、犠牲、義理、名誉、恥・誇り、責任、忠義、感謝、仕方がない、頑張り、我慢、恩、孝行と書かれた石碑が置いてあります。これらは移民の方々が常に大切にされていた日本人としての心です。異なる文化、環境で想像外の過酷な労働を課せられても、なんとかハワイに適應していこうという前向きで強い心は、現代の私たちが忘れがちな大切な考えであると感じました。また、これらの考え方は日系二世が太平洋戦争の際に、アメリカ人としての忠誠を誓うべく米軍として戦い、大いに活躍した背景にあったものだと思います。歴史、文化に加えて、日本人としての心をこの資料館で再確認することができました。

次に二つ目の目標である、福岡県人会というコミュニティがどのような役割を果たしているのか理解することです。今回、ヒロ・コナ・ホノルルの三つの福岡県人会との交流を通して感じたことは、福岡県人会は、その会員にとって自分のルーツを感じ、祖先を想うことのできる、家族のような大切なコミュニティであるということです。県人会の皆さんは、私たちに祖先が福岡県のどこ出身なのか、また祖先について詳しく教えてくれました。また、福岡を訪れた際には祖先の墓参りをすると言っていました。日系人の方々は祖先を強く想っているからこそ、同じルーツを持つ人との集まりをとっても大切にしているのだなと

感じました。

私がハワイで出会った日系人の方は、思っていた以上に日本のことを想ってくれていて、日本人としてのアイデンティティを強く持っていると思いました。交流の中で福岡や日本についてたくさん質問して下さったり、日本の歌や踊りをたくさん知っていたりと、日本を分かろうとすること、そして福岡や日本との繋がりを持ち続けようとしていて強い気持ちを感じました。

また、ヒロでのホームステイ先のお宅にはやかんや掛け軸、日本茶をいつも飲むことなどに加えて、ひらがなの五十音表が貼ってあり、日系5世である娘たちにも日本の言葉を伝えようとしていることがとても感慨深く、また嬉しかったです。

そして、三つ目の目標である、グローバル化した社会で考えや価値観が異なる外国人とどのようにコミュニケーションをとるべきなのか、何に気を付けるべきなのかを学ぶということです。

ハワイ日本文化センターの展示の中に印象深い英文がありました。それは、宇宙飛行士として活躍されて殉死された、福岡県うきは市にルーツを持つ日系三世エリソン・オニヅカさんの言葉で、目に見えるものだけではなく、目に見えない相手のことを互いに理解しようとするのが大切だという言葉です。これは今ある人種差別や偏見など様々な問題を解決するための大切な考えであると感じたと同時に、これから私自身が外国人と関わる中で表面的な部分ではなく、その人の文化背景などを理解していくことが必要だと感じ、常に自分の心の中に留めておこうと思いました。また、この学びは自分にとって大きいものでした。

これらの、目標に対する学びだけではなく、ハワイに実際に訪れ、ホームステイを経験したことで学ぶことができたものがありました。その一つにハワイ、アメリカの社会問題があります。まず、ホームレス問題です。ホノルルの街中の公園や道路の片隅にはそこで生活するたくさんの方がいました。ホストファザーによると、子供のいる家族もそのような状態にあるそうです。それは、都会化し、物価が高く家賃や生活費が払えなくなる人・家庭に加えてアメリカ本土のホームレスの人々が温かい土地を求めてハワイに移るため、数多くの家がない人々で町が溢れているといいます。このことは解決されなければならないことだと感じました。加えて、学び、考えることができた社会問題について、育児放棄があります。私がホノルルで三日間滞在させてもらった家庭には養子として育てられている幼い子が9人いました。中には2人の0歳児もいました。彼らは親に問題があって保護された子供たちです。最初は驚きと戸惑いでいっぱいでしたが、一緒に遊ぶうちに家族がたくさんでにぎやかな家から離れることが悲しくなっていました。

また、ホストファザーとマザーは本当に子供たち想いで、なぜ養子として受け入れるようになったのか、などたくさん話を聞くことができました。日本ではこのような問題についてあまり考えたことがなかったので、とてもいい機会でしたし、もっと理解を深めるためにこれから勉強していきたいと思いました。

このプログラムでコーヒー農園やハワイ州議会、日本国総領事館、真珠湾の訪問やハワイ大学の学生との交流など貴重な経験をすることができました。海外で活躍されている日本人の方からお話を聞き、アドバイスをもらうことで、自分の将来について考え直し、大学生のいま何をすべきかを知ることができました。また、滞在中英語を使って自分のことや、自分の意見を言うことが多く、自信をもって英語を話すことにつながる研修でしたし、英語の勉強の参考にもなりました。この7泊9日を共にした他大学の学生から自分にはない考えを得ることができたいい機会でした。このグローバルステージ in HAWAIIを通して学んだたくさんの方のことをこれからに生かし、また福岡県人会の方と交流を続けていきたいと思えます。

グローバルステージ in HAWAII 報告

ごんどう じょう
権藤 丞

(久留米大学 商学部商学科 2年)

私はこのグローバルステージ in HAWAII を通して、3つ学んだことがある。1つ目は、「人間の限界は無限」だと感じた。特に、会社の社長やハワイでリーダーとして活躍している人の話を聞いていると、そのことをよく感じた。サン・ヌードルの卯木栄人社長の「能力に勝るのは努力」という言葉に感銘を受けた。頭があっても努力がなければ使えないという卯木社長の話を聞いていると、自分の今までしてきた努力がちっぽけなものに思ってしまうほどに、壮大な苦難を何回も経験してきた人生でカッコいいと思った。もう一つ心に残った言葉が、「物事は未来進行形で考える」であり、自分のこれまでの人生を振り返ってみると、ゴールのない事をしたことがなく、必ず終わりのあることにしか挑戦してこなかったため、終わりのない挑戦というものをしてみたくなった。人間は努力すれば国境を越えて成功することができるという卯木社長が証明しているようで、自分も負けられないと思った。こういった社長と直接お話をすることはあまりなく、貴重な経験をさせてもらったので、しっかりと自己成長の糧にしたい。

2つ目は、「昔ハワイに移住した人たちの壮絶な人生の歴史」を深く学んだ。ヒロでのハワイ日本文化センターとホノルルの日本文化センターではハワイの日系一世や二世、戦時中の日系人について深く学んだ。ハワイでは昔からスパムが人気らしく1つのスパムを10人で分けて食べ、1日10時間の重労働で働かされていたが、「仕方がない」という言葉で、むしろポジティブに考える精神で頑張っていた過去があると知った。特に「失われた部隊」という442部隊のビデオを見て日本的精神なのにアメリカ側に付いて、日本人と戦争していたという事実を初めて知り、同じような顔の民族同士、同じ日本人同士戦っていたと思うと心が痛くなる話だった。もし私がその場にいたならば、アメリカ兵として志願していたかなと思うほど究極の決断だと思い、やはり平和にこのこと生きている私たちとは全く違った感性を持っていたのかなと感じた。最近では、アメリカ人と日本人など現代を生きる人同士を仕事のやり方や、生活様式の違い、人間性の違いなどが話題になっているが、このように日本人や日系人の、昔の人と今の人の性格や感性の違いなどを知り、自分の糧にするほうが、身近で性格や文化が似ているので効率のいい自己成長に繋がると確信した。

3つ目は、「海外で初めてのホームステイ」の経験。私は、日本では何回かホームステイしたが、海外では初めての経験で、3つの家族にお世話になった中で、その内の2つの家庭では、自分1人でホームステイをさせてもらった。私達日本人より日本文化に深く関わっており、全ての家庭に日本人形が置かれており、日本より日本文化が根強く残っているという印象を受けた。私は、ほとんど一人でのホームステイだったので人一倍ホストファミリーと関わる時間が多く、英語しか通じないので多少苦

労したが、その分ハワイの文化や自分の英語力、コミュニケーションの取り方など、多くを学ぶことができた。特にコナでのホームステイ先が生粋のアメリカ人だったので、英語の発音や速さなどがハワイで生まれ育った人とはちょっと違い、コミュニケーションを取るのが難しかった。しかしホストファミリーも私の話を真剣に聞いてくれて、私もそれにちゃんと答えないといけないので、寝床で明日どんな話をしようかと考え、スマートフォンや辞書を使って英語の勉強をしていた。その甲斐があったのか、前日より話がよく盛り上がって、言語が違ってもこんなに盛り上げられるのはとても嬉しかったのと、すごく良い経験ができたなと思った。

しかし、まだ英語がペラペラ話せるわけではないので、わからない単語は調べたりしていたが、日本で英語の勉強をするよりも断然、効率が良く、英語を勉強するなら、海外に足を運んで勉強したほうがいいと、よく言われている事を肌で感じる事ができた。

ほとんどのホストファミリーが車好きの方たちで、特にコナの BERTILSON 家のホストファザーBobとは1時間くらい車の話で盛り上がり、トニーさん宅でのピザパーティーの時に遅れるほど熱中して話をした。このように文化や言葉を超えて、趣味の話で盛り上げられたことに感動した。外国人と手っ取り早く仲良くなれる方法は、コミュニケーションも大切だが、共通の趣味や世界共通の話題を知っておくことも重要なんだと今回のホームステイで感じた。

今回のグローバルステージ in HAWAII では様々な経験をし、自分の知らなかった世界や考え方などを学ぶことができた。最初に立てた目標「自己成長の起爆剤となるような経験にする」について達成できたかどうかは、今後分かってくるので、ちゃんと証明するためには、もっと大きなことや、今までと違ったことに挑戦していきたいと強く思う。

今回、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございます。今後も積極的に福岡国際交流センターの事業に参加し、国際交流を深めると共に福岡県人会との懸け橋になれるように努めます。

ハワイ島福岡県人会 (Hawaiiishima Fukuoka Kenjinkai)

- 創 立 1967年
- 会 長 能丸 淳一 (2014年3月就任)
- 会 員 数 208名(113世帯)
- 所 在 地 ハワイ州ヒロ市

平成29年度県人会担い手育成青年派遣事業 (グローバルステージ) 報告

たかしま じゅん
高島 潤



(九州大学 経済学部 2年)

今回の青年派遣プログラムでハワイを訪問し、非常に内容の濃いスケジュールで、様々な経験をさせていただきました。福岡県にルーツを持ち、世界各国で活躍する人々により結成された福岡県人会をヒロ、コナ、ホノルルの三か所を訪問し、日系人の方の日本に対する思い、特に福岡に対する思いを知ることができました。皆さんとても福岡に興味関心があり、今の福岡県について、福岡の伝統行事、日本の伝統文化など福岡、日本に関して多くのことを伝えられたと思います。

反対に、ハワイで根付いている日本の文化についても教えてもらいました。ヒロでお世話になったホストファミリーの野田さんの家族は毎年、正月にお雑煮を食べるそうで、我が家のお雑煮と野田家のお雑煮の中に入っている具材が少し異なり、お互いの具材のよさを教え合いました。私が福岡のお雑煮にはよくブリが入っていると伝えると、来年から試してみると新しいお雑煮を知ることができ、とても喜んでいました。ヒロで過ごした時間はとても短かったけれど多くのことを学べ、また多くのことを教えることができたと思います。

コナ県人会との交流でも多くの人と交流することができました。皆さん、とてもフレンドリーで、とても楽しい時間を過ごすことができました。私たち団員は県人会に歌を披露し喜んでいただくことができました。会員の方がなじみのある昔の日本の曲を披露してくださり、全員が一緒に歌っていたので日本文化が根付いているなど感じました。

ホノルルの県人会との交流ではバーベキューを通し楽しく過ごすことができました。皆さん自分の若い頃の話や日本に行ったときの話を下さり、とても楽しかったです。10年ほど前に福岡に訪れた方と今の福岡、特に天神について話す機会があり、お店がかなり変わっていてさらに魅力的なところになったことを伝えると、また行きたいと言ってくれたので、うれしく感じました。

どの人もみんな、やはり福岡に関心を強く持っているのも、そこをきっかけに楽しく話すことができました。来年、福岡に行くからまた会おうねと言って下さる方もいて、この関係をいつまでも保ち続けたいと強く思いました。

今回のプログラムの大きな目標の一つである、ハワイに移住された日系人の歴史を現地で学ぶという目標を達成しました。ハワイを訪れる前、事前に日系人の歴史を調べてレポートをまとめ、ある程度理解して行きましたが、ホノルルにあるハワイ日本文化センターを訪問し、自分で事前に調べたことよりも多くのことを学びました。ここで一番印象に残ったことは第442連隊戦闘団に関するビデオです。第442連隊戦闘団については、日本で事前にある程度調べていましたが、ビデオを見る前の第442連

隊戦闘団に対する思いと、見た後の思いは異なりました。ハワイ日本文化センターを訪れてビデオを見る前は、「最も多くの勲章をもらった日系人部隊で、すごく優秀ですばらしい部隊だったのだな。」「失われた大隊を救い出す実力を持っていた隊だからこそできた、日系人のアメリカへの忠誠の示し方なのだ。他にも忠誠の示す方法はあったが優秀だからできたのだな」と思っていました。しかし、ビデオを見て印象ががらりと変わりました。

なぜ日系人の自分たちが住んでいるハワイを日本軍は攻撃してきたのか。日系人がアメリカの敵としてみなされ、収容所に連れていかれている。2世はハワイで育ち、日本人の心も持つてはいるがアメリカで生まれ、アメリカで暮らしている。しかし、アメリカ軍からは日本人として扱われてしまう。自分はアメリカ人だという証明をしたい、どんな扱いを受けようともアメリカへの忠誠を示したい。

まずは、自分たちがアメリカにとって役に立つ存在ということを示すために、掃除から始まり様々な雑用をこなし、日系人部隊を作り多くの功績を残しました。自分の事前学習では、雑用などをして徐々に日系人への信頼を積み上げていくという部分が抜けており、この部分があるかないかで、かなり受ける印象が異なりました。日系人が日本人として認識され、信用がないのはどうしようもないならば、これからどうか信頼してもらおうという強い意志が感じられました。失われた大隊を救いだす実力を持ち合わせていたから、部隊を組んで忠誠をしめたのではない。211人のテキサスの部隊を助けるために216人を犠牲にしてまで、どうか忠誠を示すために必死に戦ったのだなと感じました。

また、私たちが見たビデオに出演していた方々の、当時思っていたことを聞いて、日本軍はなぜ私たちが住んでいるのに、ハワイに攻撃をしてきたのかという、とても複雑な心境を語っており、胸が苦しくなるような思いをしました。ビデオルームの壁には、戦争で亡くなった方の名前がびっしりと書いてあり、単なる数字で見るとより重く感じました。1世が知らない土地で生活していくため、過酷な状況でも我慢して頑張り、2世が戦争中、立場が悪くなってもあきらめずに前を向いて戦ったから、今の日本人の立場があるのだと思います。このことを私はとても誇りに思います。

今回のプログラムを通して、観光でハワイを訪れても、なかなか行けないところに多く行くことができ、とても貴重な経験をすることができました。普段の生活、学校の勉強では考えもしないようなことをたくさん学ぶことができ、とても有意義に過ごすことができました。この経験を自分の将来に生かしていき、ゆくゆくは福岡に何かの形で還元できるよう日々精進していきたいと思います。

コナ福岡県人会 (Kona Fukuoka Kenjinkai)

- 創 立 1967年
- 会 長 高井 トニー (2017年1月就任)
- 会 員 数 120名(82世帯)
- 所 在 地 ハワイ州コナ地域

ハワイで学んだこと

た なか かける
田中 翔

(西南学院大学 文学部英文学科 2年)



今回のグローバルステージ in HAWAII で学んだことは大きく分けて二つあります。

一つ目は自分自身の意識の事です。二つ目は、ハワイと日本、福岡の深い関係です。

まず、自分の事に関しては、やはり何事も行動する事が大切であることです。自分は、高校の修学旅行でしか海外に出たことがなく、ハワイまたアメリカがどういった雰囲気なのか、自分が想像していたものとは、かなり違うものでした。人から聞いたり、テレビやインターネットで見たりするより、現地に行って、肌で感じる事が大切であることを、身を持って実感できた事が、残り2年間の大学生生活、また人生に役に立つと思っています。日本には決して気付かない事、知りえない事が、たくさんあるので、今年の8月から1か月間、バンクーバーの語学学校に通うことに決めました。自分の英語力向上は勿論ですが、自分が大事だと思っている異文化コミュニケーション能力の向上を目指します。学生の間は、何事にも挑戦する時間があるので、長期休みを無駄にせず、自分を高めるために頑張りたいと思います。このハワイへの訪問がきっかけで、考え方の甘さに気付かされました。そして、自分からもっと行動していこうと思うことができ、この企画に参加させていただいたことに、心から感謝しています。必ず恩返しをすべく、今後も福岡県国際交流センターの事業に関わっていきたいと思います。

二つ目は、ハワイと日本の関係です。きっかけは官約移民ですが、歴史は150年間もあります。ハワイの議会では、今や二分の一ほどが日系人の方で構成されており、日系人の方が異国の地で活躍されている事には、大変驚きました。また、中でもエリソン・オニヅカ氏、ジョージ・アリヨシ氏、ダニエル・イノウエ氏の国民からの信頼の高さには、本当に驚きました。ダニエル・イノウエ氏は、空港の名前にもなっていて、日本人として誇り高き方です。このような日系人がハワイで活躍されていることを、我々日本人は全く知りません。日本人のハワイに対するイメージはリゾート地であることしかありませんが、一日本人として知っておく必要があると思います。

世界はグローバル化が進んでおり、視野をもっと広げていかなければならない中で、知らないという事は時代遅れと言わざるを得ないと思います。話は大きくなりますが、世界に負けないくらい発展するためには世界情勢をもっと知るべきだと思います。面接で言われた通り、このような事実を友達やサークル員に伝えていきたいと思っています。

また、今回泊まらせていただいたホストファミリーの家には日本文化を彷彿させる置物や写真がたくさん置いてあり、我々日本人より日本文化を大切にされています。今の日本人は面倒くさいからといって自国の文化を消していっています。一度違う視点から自国を見ることで、見えてきたことが多かったのも自分にとってプラスなことでした。

ハワイ滞在中は驚きの連続でしたが、中でも印象深いことは、アメリカ人はフレンドリーなところ。お店の店員さんが気軽に How are you? など話しかけてくれて、人との距離の近さに驚きました。話しかけていただいて、自分はとても居心地が良かったです。

日本の場合は、堅い挨拶や礼儀などをしなければならないので、そのような会話をすることはないので素晴らしい文化だと思いました。ヒロでステーキ屋さんに連れて行ってもらった時に、あるお客さんが店員さんに赤ちゃんの写真を見せて、このあいだ生まれたのよ、と会話をしている、距離が近くて驚きました。僕にとっては、かしこまった接客より気軽な方が、店員さんもやりがいが出てきていいと思います。日本人はシャイとよく言われますが、もっと積極的に何かをすることで、おもてなし文化をさらに磨く事が出来ると思います。

また、真珠湾を訪問し、改めて戦争について考える事が出来ました。中でも、日本の特攻兵が米艦に撃ち落されて、遺体が船に残り、普通だと海に投げ捨てるそうですが、当時の艦長がしっかり儀式を行って兵を敬うように指示したそうです。そう指示した艦長の弟さんは日本軍に殺されたそうで、そのような境遇の中、行動するなど、とても自分にはすることが出来ない、このような素晴らしい方がいるのに戦争をするなんて、とても不甲斐ないと思いました。

そして、アメリカ人は自分勝手だなどと耳にすることがありますが、私は、日本人よりも他人、困っている人の事を考えて助け合いの精神を持っていると思いました。なぜかと言うと、ヒロのホストファミリーがライオンズクラブのチャリティー朝食に連れて行ってくださいました。そこで朝食を食べることで寄付になるそうです。朝 6 時 30 分に会場に行くとすでに 100 人前後の人がいらっしやいました。そこには、福岡県人会の会員さんもたくさんいらっしやって、皆さんの優しさに頭が上がらないと思いました。私自身も自分の為だけに日々行動するのではなく、良いコミュニティを作っていくためにも困っている人々、助けが必要な人々をサポート出来る人間になりたいと思います。

今回のグローバルステージで自分の経験がまだまだ足りない事が分かり、自分をもっと学びを深めていく必要があると思いました。4 月からはゼミが始まり、アメリカ文学の学びを深めていく予定です。ハワイで感じたことを踏まえながら頑張っていきたいと思います。

このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。自分磨きをし、福岡県の国際交流の役に立てるように日々精進していきたいと思います。

ハワイ福岡県人会 (Hawaii Fukuoka Kenjinkai)

- 創 立 1957年
- 会 長 サクダ キース (2018年2月就任)
- 会 員 数 230名150世帯
- 所 在 地 ハワイ州ホノルル市

グローバルステージ in HAWAII 報告



ともぞえ たいし
友添 大志

(九州大学 法学部 2年)

私は、福岡県にルーツを持つ移民の方々の歴史や先人たちのフロンティア精神を学ぶグローバルステージ in HAWAIIというプログラムに参加し、2月23日から3月3日の9日間ハワイにて様々な経験をさせていただいた。

そもそも、私がこのプログラムに応募した動機として、日本に留まっているだけでは分からないことを学ぶことによって視野を広げ、私の将来に活かしたい、というものがあつた。そこで、私はこのプログラムに参加するにあたって「視野を広げる」、という目標を立てた。

具体的には、移民の方々のゼロから何かを創り出すことについて、またどのような思いで海を渡り、どのように現地で生活していたかを学ぶこと、そして現地の人や学生と交流しその価値観に触れるというものだ。私はこの目標を達成することを念頭にハワイで行動し、様々なことを学んだ。よって、このプログラムでの目標を達成するためにハワイで行動した際に感じたこと、学んだことを中心に本報告書を作成したい。

まずは、移民の方々の歴史を学んで感じたことについて述べていきたい。19世紀後半頃、日本からのハワイへの移民が本格的に増え始めた。というのも、当時の日本政府がハワイへ行けばお金が稼げるという話を国民にしており、また当時ハワイで働くとならば日本の20倍お金を稼げるという噂もあつたからである。これを基にハワイへ出稼ぎに出た日本人は多かつたが、現地での労働は非常に過酷なものであり、生活は苦しかった。1日10時間の農作業、また工場では暑い中12時間労働させられていたという。移民の中には全く農作業をしたことが無い、以前は武士だつた者たちも含まれていた。彼らは農作業に慣れていないため疲労と暑さから倒れることもあつたが、仮病扱いをされ鞭を打たれて働かされた。加えて、稼いだお金は日本の家族への仕送り、日本に帰る際のお金、現地での生活費などに消え、生活は非常に苦しかった。このように過酷な労働、生活は厳しい、言語は通じない、気候は違う、差別は受けるといったような過酷な環境下においても先人たちは一生懸命働いた。そのような過酷な環境下において彼らを支えたのは「仕方がない」という彼らの価値観、世界観であつた。この「仕方がない」という言葉を聞いて、ネガティブな意味合いを思い浮かべる人が多いかもしれないが、ここでの意味合いはポジティブなもので、起こってしまったものは仕方がない、次に何ができるか考えるというものである。このように、先人たちは過酷な環境下でも「仕方がない」というポジティブな価値観を持ち、働き続けた。移民の方々は移住当時、日本人のコミュニティが無かつたのにも関わらず、「仕方がない」というポジティブな考えの下、ゼロからそれを見事に作り上げていったのだ。現在、ハワイでは多くの日系人、日本人が

受け入れられている。私がハワイに派遣された際にも多くの日系人、日本人が観光のみならず、居住していたが、これは先人たちのゼロの状態から「仕方がない」、という価値観の下作り上げていった努力があってこそのものであると痛感させられた。

次に、現地の人や学生の価値観を学び、感じたことについて述べていきたい。このプログラムでは、ハワイ大学の学生と共に授業を受ける機会が設けられていた。そこで、私は日本との大きな違いを感じることができた。それは、ハワイ大学の学生の積極性である。講義中の教授からの問いかけに対して、全ての学生が積極的に答えていた。日本の学生は一般的に消極的であり、このような光景は日本の大学ではあまり見られないものであると思う。このような違いは以前にも聞いたことがあったが、実際に自分の目で見ることは私自身への教訓にもなり、非常に良い経験であった。

また、今回福岡県と縁がある3家族のところに、ホームステイをさせていただいた。どのホストファミリーも、私たちに対して非常に優しく接してくれて、車で現地の有名どころへ連れて行ってくれたりもした。そして、お別れの際にはお土産をたくさん持たせてくれた。その3家族の中でも、ヒロでのホストファミリーの方は日系人の夫婦であり、ここでのホームステイは日系人の方々のことを知ることはもちろん、私自身を見直すきっかけにもなった。ホストマザーとファザーはそれぞれの先祖、つまり日系一世のことや彼らの子どもたちのことについて詳しく話してくれた。彼らの子どもが書いた彼らの先祖、つまり日系1世について書いたレポートまでもみせてもらった。彼らがいかに彼らのルーツを大切にしているかを感じることができた。また、ヒロでのホストファミリーの家には水墨画や箸など日本に縁のあるものが多くあり、彼ら自身が日本という国がルーツであることを誇りに思う、とも話していた。私は、私自身が日本人であることへの意識が希薄であったため、これは私にとって非常に刺激にもなった。これらの点から、ヒロのホストファミリーのところでは、彼らが日本を誇りに思っていると感じることができ、加えて私自身が日本人であることを見直すきっかけにもなった。

私は今まで移民の方々が経験したような、何かをゼロから創り出すという経験をしたことはなく、日本以外に居住した経験もない。そのような中、今回このプログラムで何かをゼロから創り出すということについて、また他国の方々の価値観について学ぶことができた。また、日本からの移民の方々について学んだ後には、私自身が日本人であることを誇りに思うようになり、現地の人や学生と交流した際には日本及び日本人が見習わなければならないところを多く見つけることができた。このことは、私の視野を広げることに繋がり、非常に良い経験であったといえる。今後はこのプログラムだけに留まらず様々なことに積極的、能動的に参加し視野を広げ、将来的にグローバルな活躍ができるようにしたい。

ハワイ日本センター (Hawai'i Japanese Center)

751 Kanoelehua Avenue Hilo, HI 96720 USA

地域の文化、研究教育機関としての役割を担う。講義、展示、コンサート、映画等の催しを行い、また、歴史的に貴重な品々を保管と展示のために収集している。近年、地域からの寄付金とボランティアにより大規模な改修が行われた。



グローバルステージ in HAWAII 報告



ひさえだ あやね
久枝 綾音

(日本赤十字九州国際看護大学 2年)

私は、将来、国際看護師として難民支援や発展途上国で活動したいという夢がある。国際看護師には、その国の文化や歴史、習慣を理解し受け入れ、適応していく能力が必要である。私は、この研修を通して、日本人移民が変わりゆく環境、社会の中でどのように適応し、現地の人々と共存して生きてきたのかを学ぶことで、将来自分自身や周りの人々に役立てていけると考え、この研修に応募した。

私は、この研修をより良いものにするために、事前に3つの目標を設定した。これから、その3つの目標を中心に、今回の研修で学んだこと、感じたことについて述べていく。

まず、1つ目の目標は、「日本人移民の歴史についての学びを深める」ということである。日本に住んでいると、日本人移民について学ぶ機会は少なく、私たちと同じ、日本にルーツを持つ人々の歴史について学ぶことは、とても重要なことである。私たちは、厳しい環境の中で、日本人としての心を大切に生きて抜いてきた日本人移民を尊敬し、その精神を受け継いでいくべきである。私は、今回の研修で、ハワイ日本センターやハワイ日本文化センターを訪問し、日本人移民についてより深く学んだことで、改めて日本人らしさに触れ、日本人としての生き方を学ぶことができた。

ハワイ日本文化センターの石碑には、「孝行、恩、我慢、頑張り、仕方がない、感謝、忠義、責任、恥、誇り、名誉、義理、犠牲」という、日本人移民が大切にしてきた価値観が刻まれていた。この13個の言葉には、とても日本人らしさが現れていると感じたと同時に、当時の過酷な環境を連想させるものであった。

日本から、より良い生活を求めて、靴ひとつで海を渡ってきた1世が直面した、過酷な労働や偏見、花嫁としてハワイへ渡ってきた女性たち、真珠湾攻撃によって日系人でありながら、アメリカへの忠誠心を問われた2世たち、様々な人々が、過酷な環境、困難な状況の中で生き抜くことができたのは、この13個の価値観があったからだと思う。また、ハワイ日本センターには、「辛抱」と書かれた掛け軸が展示しており、日本人移民が、過酷な環境の中でも辛抱強く生きてきたからこそ、今日の日系人があるのだと思った。

ハワイ日本センターとハワイ日本文化センターには、琴や仏壇、神棚、天皇陛下の写真、着物などが展示しており、日本人移民たちは、日本独自の文化を大切にしていたのだと感じた。

私が、日本人移民の歴史について学んだ中で、最も印象に残っていることは、アメリカ兵に志願した日系人2世である。日系人部隊第442連隊は、アメリカ史上最も多くの勲章を受けた部隊として知られている。

日系2世は、両親から、日本の伝統や精神を受け継ぎ、重んじながら生活していた。こんなに多くの日系2世が、真珠湾攻撃後、アメリカに忠誠を誓い、アメリカ兵に志願した。1500 人の日系人兵士の募集枠に、1万人以上が志願し、多くの日系人兵士たちが、アメリカ兵として戦争を戦い抜いてきた。

私は、多くの日系2世たちが、日本に対する怒りや、「自分は日本人なのか、アメリカ人なのか」という葛藤を抱えながらも、アメリカ兵に志願したのは、決して、日本に敵国心を持っていたのではなく、「誰かのために」という思いが強くあったからこそであると思う。この相手のことを思う気持ちは、日本人らしさであり、2世たちに、日本人の精神が受け継がれていたのだと感じた。私は、多くの負傷者、死者を出しながらも、アメリカの勝利のために戦ってきた、日系2世の方々を誇りに思う。

今回、この研修を通して、日本人移民について学んだことで、日本人らしさを感じることができた。ハワイ日本文化センターの「おかげさまで」という言葉には、自分たちの祖先や、支えてくれる周りの人々への感謝の気持ちを表すものであり、今日の日本人が忘れがちになっている精神であると感じた。私は、今の生活が当たり前になっており、家族や友人、私を支えてくれる人々に対する感謝の気持ちを忘れていた。「おかげさまで」という言葉をきっかけに、感謝の気持ちを持つということは、とても大切であるということを知り、常に、感謝の気持ちを持った人間でありたいと思った。

また、石碑に刻まれていた 13 個の言葉は、厳しい環境の中でも生き抜き、大きな偉業を成し遂げてきた日系人たちを支えてきた言葉であり、今の私も持つべき価値観であると感じた。13 個の言葉は、どれも重みがあり、日本人として大切にすべき価値観であった。特に、我慢や責任、正義などは、何事にも一生懸命に頑張る日本人らしさを表すものであり、日本人として生きていくためには必要な精神である。私は、これから、この 13 個の価値観を大切に、日本人らしく生きていきたいと思った。

次に、2つ目の目標「何事にも興味や疑問を持ち、積極的に学ぶ」について振り返る。今回の研修では、ハワイ大学の授業に参加したり、様々な企業や施設を訪問し、海外で活躍されている方々の話を聞く機会が多くあった。看護の分野を学んでいる私にとって、大学の授業や海外で活躍されている方々の話などは、どれも刺激を受けるものであった。私は、話を聞いて疑問に思ったことや知りたいことは、積極的に質問するように心がけた。たくさんの方々の経験談を通して、海外で活動するということは、その国の代表として見られるということ、失敗しても諦めずに努力し、何事にも挑戦すること、考え方を肯定的にすることなど、海外で活躍するために必要なことを学んだ。

そして、今回、話を伺った方に共通して言えることは、自分の仕事に誇りを持っているということであった。自分の仕事に誇りを持つことで、目標や欲求が生まれ、それに向けて努力し、結果として、良い方向にいくのだと思った。私も、自分の仕事に誇りを持って、自分の目標に向かって努力できる人間でありたいと思った。

また、今回の研修では、日本人移民だけでなく、ハワイの歴史についても学んだ。ロイヤルハワイアンセンターでは、ハワイの歴史やフラダンスのレッスンを通して、ハワイの文化に触れ、より一層ハワイについて学びたいと思った。厳しい環境の中、アイデンティティを確立させ、自分たちの文化を大切に生きてきたのは、日本人移民だけでなく、ハワイの先住民族も同じであると感じた。彼らには、共通する部分が多くあり、彼らから沢山のことを学ぶことができると思う。これからは、日本人移民だけでなく、ハワイの歴史についても学んでいきたい。

最後に、3つ目の目標「現地の人々や、ホストファミリー、派遣メンバーと積極的に交流を深める」について振り返る。私は、県人会やホストファミリーとの交流を通して、今もなお日本の文化が受け継がれているということを実感することができた。家では靴を脱ぎ、ご飯の際には、「いただきます」、「ごちそうさ

までした」を当たり前のように言っていた。また、コナ県人会では、今年、93歳になる日系人2世が、日本の歌を披露してくれて、今でも日本の心が根付いているのだと感じた。

ヒロのホストファミリーのKanemoto 家には、家紋が飾られていた。私が、「Kanemoto 家の歴史について知りたい。」と伝えると、家系図を見せながら教えてくれた。家系図には、移民として渡米した祖先より前の世代から記されていた。ホストファミリーは、「もっと家族の歴史について知りたいけれど、日本語が難しくてわからない。」と話していたため、私の拙い英語ではあったが、辞書を引きながら、わかる範囲で家系図を訳し、先祖が何をしていたのかを伝えた。私は、家紋や家族の歴史、日本の文化を大切にしている姿を見て、日本人よりも日本人らしいと感じた。そして、これから、さらに世代を重ねるにつれて、日本人移民の歴史が希薄になっていかにないように、県人会の開催や、私自身、これからも交流を続けていきたいと強く思った。

また、研修中に派遣メンバーと夢やこれからの目標について語り合い、刺激をもらった。志を高く持った仲間と出会えたことで、夢を応援したいと思え、また、私自身も夢に向かって頑張ろうと思うことができた。

今回の目標である「積極的に」という部分では課題が残ったが、現地の人々やホストファミリー、派遣メンバーをとの交流を通して、多くの刺激を受けて、私自身、成長することができたと思う。

グローバルステージ in HAWAII の研修に参加し、ハワイの歴史、日本人移民の歴史を学び、様々な人々との交流を通して、観光では決して経験できない貴重な経験をすることができた。特に、日本人移民についての学びが私にとってとても大きかった。私は、日本人移民が「どのような気持ちでここまで来たのか」、「どのようにしてアイデンティティを確立してきたのか」を考え、この気持ちというのは、自国を逃れなければならなかった難民と同じであると思った。偏見や差別は、「無知」や「無関心」から生まれるものであるから、この研修を通して学んだ、「相手を理解すること」、「共通点を見つけること」を大切に、その国やその人の背景を理解した上で、相手と接することができる看護師になりたい。

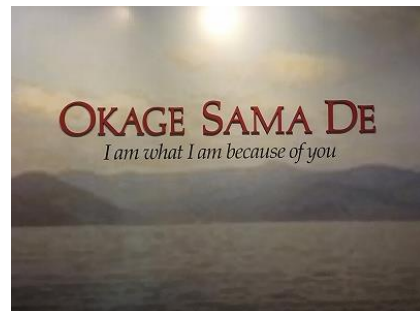
そして、多くの日系人、日本人がハワイで活躍していることを知り、同じ日本人としてすごく尊敬し、誇りに思った。私も、日本人移民が大切にしてきた13個の価値観を大切に、日本人として恥じないように生きていきたい。

この研修を支えてくださった国際交流センターの方々、9日間行動を共にした派遣メンバー、快く私たちを受け入れてくださったホストファミリーや県人会の方々、この研修に関わった全ての人に感謝し、これから、この研修での学びを大切に、夢に向かって日々精進していきたい。

ハワイ日本文化センター (Japanese Cultural Center of Hawai'i)

2454 South Beretania Street Honolulu, HI 96826 USA

歴史展示館、資料館、武道剣士館、茶室、ギフトショップを併設。一年を通して、プログラム、催し物、展示会も行い、文化センターとして地域の集いの場。ハワイで日本人と日系人の社会で古くから伝わる文化を継承、促進し、ハワイ日系人社会の歴史や経験を保護することを目的とする。



『感謝』の気持ちを忘れないこと



はら ひろか
原 弘華

(西南学院大学 文学部英文学科 3年)

私は、このプログラムに参加するにあたって、日系人のルーツを辿る、というテーマに加えて、私自身の『グローバルの本質を探る』という目標を立てた。今では企業や教育現場、様々な場面でよく耳にするグローバルという言葉は、世界的規模であること、日本や海外、国境隔てなく活動すること、という意味で、様々な場面で目標とされている。『グローバルに活躍する』というが、その場面に直接立ち会える機会は少ない。その為、この機会に日本にルーツを持つ県人会の方々や、日本を出て海外で活躍される方々から、グローバルの良い面も悪い面も含めての本質とその方法を学びたいと考え、このような目標を立てた。まず始めに、私たちは、日系移民について事前に下調べを行ってこの研修に臨んだ。戦前から、何千人もの日本人が移民としてハワイで生活していたこと、現地での生活は過酷なものであったこと、戦時中は弾圧を受けたこと、多くの知識を準備した。しかしそれらは、実際に訪れて私たちが想像しているもの以上であることを知った。また、私たちの想像以上に、福岡から何万キロも離れた地で日本のルーツを多く見つけたことに驚きの気持ちでいっぱいだった。

ヒロでハワイ日本センター、ホノルルでハワイ日本文化センターと2か所の日系移民に関する資料が納められた場所を訪れた。日本とハワイ、今でこそ飛行機で10時間もかからずに着くが、当時は船で何十日もかかったそうだ。気候も違えば言葉も違う、見知らぬ土地での生活がどれだけ大変なことだったのかを知った。ホノルルでハワイ日本文化センターを訪問した際には、『おかげさまでツアー』に参加させて頂いた。入り口には12の石柱が並んでいて、それぞれ孝行、恩、我慢、頑張り、仕方がない、感謝、忠義、責任、恥、誇り、名誉、義理、犠牲という日本語が刻まれていた。これらは、日系1世の人々が大事にした価値観だそうで、苦しい生活を耐え抜く中で日系人の在り方として今まで伝えられているそうだ。

また、「I am what I am because of you (私が今の私でいられるのは、あなたのおかげです)」というフレーズに私は1番感銘を受けた。これは現在ハワイの社会に生きる日系の人々から、1世や2世として先代に道を切り開いてきた人々へ向けた、感謝の気持ちであるそうだが、当初は過酷であった日系人としての生活があって、今の私たちの生活がある、とガイドして下さったスタッフの方が仰っていた。感謝という言葉は石柱に刻まれていた言葉のひとつでもあるが、これを聞いて私も自分自身を振り返るべきだと強く感じた。こうやって私たちが勉強できているのも周りの人々の支えがあつてのことであるし、全部ひとりで生活していくことは不可能である。些細なことでも周囲に感謝する気持ちはいつの時代も大切にしなければならないことで、支えられていることが当たり前にならないよう、忘れてはならないことだ

と学んだ。

また、ヒロのホームステイ先では、日系4世であり、県人会の会員であるホストファザーから、福岡から移住してきたおばあさんの話や、家族の話、家系のお話を伺った。「私は4世で、生まれも育ちもハワイだから、日本のことを勉強している…」と仰っていたが、やはりここでも『感謝』という言葉が浮かんだ。部屋には習字と折り鶴で作られたディスプレイや、ジブリのキャラクターが飾られていたり、子どもたちがひらがなを勉強したりしていた。これらは、自分たちの祖先、ルーツに敬意を払ってのことだと後にお話を伺っていて気付かされた。今まで日本に住んでいながら、日本の文化や歴史について、深く考え勉強することが無かったことが、少し恥ずかしくも感じた。本当に身近で気付かないけれど、先にも述べた、『おかげさま』の言葉の様に、私たちも自分自身の今ある状況が、私たちの祖先や、周りにいる人々の『おかげ』であることにもう1度目を向けるべきだと感じた。

これらの経験を通して、『グローバルに活躍すること』、その根源は、かつて日本から多く移住された日系移民の方々の変遷にあるのではないかと私は気づいた。文化センターや、県人会の方々から学んだ、ルーツを大事にする気持ちと、感謝する気持ちこそが、現代の『グローバル』に通ずるもので、世界で活躍するにあたって大事にしなければならないことだと強く感じた。時代や背景は違えども、日本を離れて遠く見知らぬ地で自分自身の生活を切り開いていくことに違いない。

そして、今回の研修を通して私はグローバルの本質とは、私自身が考えていた以上に困難なことであり、それと同時に想像以上のものが得られるものであると学んだ。将来、私の目指す教員として、身をもって体験したグローバルを伝えていくことで、まだ直接経験することの無い子どもたちに、夢と希望を与えられたら、と考えている。グローバル人材の育成に携わり、貢献することが私の目標である。その為に今回の研修で学んだことは大いに生きてくると思う。

私たちの為にたくさんの準備をしてくださった県人会の方々、福岡県国際交流センターのスタッフの方々、現地で活躍される先輩方、親切にもてなしてくださったホストファミリー、助け合い生活した派遣メンバー、送り出してくれた両親、本当に多くの支えがあり、このような貴重な機会を頂けたことに、感謝の気持ちを忘れずに今後の活動に取り組みたいと思う。

グローバルステージ（青年派遣）

福岡県内に居住する青年（18歳以上30歳未満）が、福岡県出身者が移住した国を訪問し、海外で活躍する日系人等との交流や、フロンティアに挑んだ先人について学ぶこと、また、現地で政治・経済・社会事情理解を通して国際感覚を身に付け、また、ネットワークをつくることを目的としています。これまでに35名の青年を派遣しました。

第1回（2015年3月） ブラジル福岡県人会／ハワイ、ハワイ島、コナ福岡県人会

第2回（2015年8月） 在ボリビア福岡県人会／シアトル・タコマ、バンクーバー福岡県人会

第3回（2017年3月） ブラジル福岡県人会

平成30年2月23日(金) ヒロ



キラウエア火山視察



ハワイ大学ヒロ校との交流
学生によるキャンパス案内



ハワイ島福岡県人会主催歓迎会



ホストファミリー(県人会会員)と一緒に

平成30年2月24日(土) ヒロ、コナ



ハワイ日本センター視察



すばる望遠鏡研究所
能丸教授(ハワイ島県人会会長)による説明



ヒロからコナへ移動

ダニエル・K・イノウエ・ハイウェイを利用



コナのホストファミリー歓迎夕食会

平成30年2月25日(日) コナ



カントリー・サムライ・コーヒー・カンパニー農園視察

県人会会員のウォルター・クニタケ氏経営



コナ福岡県人会主催歓迎会



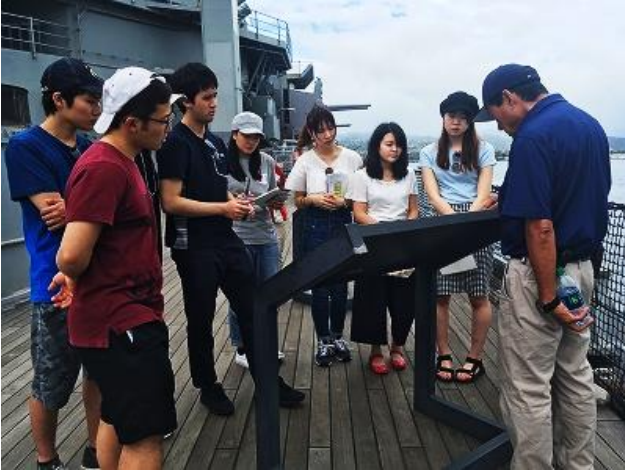
コナ・ナチュラル・ソープ視察



夕食会

高井氏(コナ県人会会長)のご自宅にて
派遣者全員で歌を披露

平成30年2月26日(月) コナ、ホノルル



戦艦ミズーリ視察



真珠湾ビジターセンター視察
第二次世界大戦時の米軍日系人部隊

平成30年2月27日(火) ホノルル



ハワイ州議会訪問
イノウエ上院議員とともに



ハワイ州議会訪問
コバヤシ下院議員(元ハワイ県人会長)とともに



ハワイ州知事室
アリヨシ元州知事の肖像画の前で



ハワイ大学ウェストオアフ校との交流
サクダ教授(ハワイ県人会長)による講義に
現地学生とともに参加

平成30年2月28日(水) ホノルル



ハワイ大学マノア校との交流
現地学生によるキャンパス案内



ハワイ日本文化センター視察



サン・ヌードル社視察
ハワイで製麺会社を起業した外木社長による説明



フラ・レッスン体験
ロイヤルハワイアンセンターにて受講

平成30年3月1日(木) ホノルル



在ホノルル日本国総領事館訪問
有吉領事からハワイ移住史や現代社会事情
についての説明



ロイヤル・ハワイアン・センター・ツアー



レストラン『Kaiwa』
岸下氏(総料理長・福岡県出身)を訪問



ハワイ福岡県人会との交流会

県人会の方々と



ハワイ島福岡県人会 (ヒロ)



コナ福岡県人会 (コナ)



ハワイ福岡県人会 (ホノルル)